

食道裂孔ヘルニアに対する外科的治療とその効果

ご高齢で背中が曲がっているような女性で、胃がすべて脱出するような非常に大きな食道裂孔ヘルニアを有しておられる方が増えてきています。このような方では食事は可能なのですが、食後に胃部不快感が持続したり、嘔吐があったり、さらに嘔吐に伴って誤嚥性肺炎を生じたりします。胃以外の臓器の脱出を伴っていることもあり、突然に大量の嘔吐を生じたり、脱出臓器の壊死を生じることもあることが報告されています。

このため、症状のある大きな食道裂孔ヘルニアは、食道裂孔ヘルニアの手術経験のある外科医が手術の必要性の有無を判断する必要があるとされています(高齢者の GERD ガイドライン 2019)。

当院では、お元気な高齢者の多い甲賀甲南地域で、腹腔鏡下に行う食道裂孔ヘルニアの手術を積極的に行い、手術件数は年間10件程度行っております。日本内視鏡外科学会の腹腔鏡手術のアンケート調査では、食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術は現在、日本全体で年間約300件ほど行われているのみであり、この疾患の認知度は、まだまだ低いといえます。食道裂孔ヘルニアに対する手術は患者さんの生活の質を改善できる数少ない外科的治療です。

本手術の対象者の多くが後期高齢者の方ですが、体に優しい手術のため、高齢者の患者さんにもお勧めできる手術です。

